

| 番号 | 区分 | 質問・意見等 | 回答・対応等 |
|----|-------------------------|---|---|
| 1 | 運行実績の分析について | <p>収支率 20%を切らなければ、改善の検討をしなくて良いようにしか聞こえてこない。 数値目標を行政負担率 50%未満とするのであれば、「<u>どうやって 50%にもっていくのか</u>」考えなければならぬ。<u>市と地元のバス運営協議会で共同して話し合っていかなければならぬ。</u> 1 便何名乗っているのか、混んでいる時間帯に便を増やすことは考えているか、空いている時間に乗客を増やす方法は考えているのか。</p> | <p>運行の改善については、<u>市と地域が協力して目指すもの</u>と考えている。最終的には自主事業化できるくらいのものが望ましい。運行時間帯ごとの利用者数やその他、<u>市の把握している情報について分析し、その結果を共有した上で考えていきたい</u>と考えている。 今回の<u>運行指針</u>については大枠、全体の方向性としてお示しするものと考えている。</p> |
| 2 | 藤井委員アドバイス (数値目標について) | <p><u>公共交通は、どのような暮らし方をするか、という生活の根幹に関わってくるものであり、どの程度維持するのかという整理は自治体次第。</u></p> <p>収支率の見方而言え、トリガー方式のように数値基準を作り、これを満たさなければ廃止、としている自治体もある。 極端な話し、市の財政力次第であるが、<u>どこまでも出すという自治体はまずない。</u> 運行しているものを止めるための計画指針を作らない限り、自治体はその運行を維持しなければならない。マイナスのスパイラルに陥らないために<u>指針作りは非常に重要事。</u></p> <p>設定する数値については、何を基準にするかによる。<u>現行 2 路線の運行を担保するのであれば、20%が一先ずの目標値になるだろう。</u>そこをクリアするのが第 1 ステージとなる。</p> <p>20%から先、健全化に向かうためにはどうしたらよいか。目標とする行政負担率 50%以下という数式が出ている。この中で<u>運賃収入プラス広告等のサポート収入</u>というキーワードがある。</p> <p>例えば、運賃収入が総事業費の 10%にしかならなかったとしても、地域の方たちが地域の高齢者のため、移動を担保するためにコミュニティバスが必要だ、ということで 40%を<u>地域で負担</u>すれば目標が達成できる。</p> <p>こうした話は、<u>地区別に交通を維持するための方策を考えなければならぬ。</u> 例えば、他市であれば、<u>大規模小売店舗で買物された場合のキャッシュバック</u>を組み込んだりしている。そういったものを<u>サポート基金</u>という形で公共交通会議に入れるしくみを自治体として検討していることもある。そういった大枠が付加されてくれば、少し収支率の軽減が図られる。 富士宮市ではイオンでは、本当は公共交通会議に計上する自体に問題があるのか、というところから議論になったのだが、現在は 70 万円程のサポーター基金というのを提供頂いている。70 万円位ですと確か 200 円運行のコミュニティバスであり、それを割った回数分が市民の利用として年間補填されている。片道利用という形で担保される。</p> <p>あるいは、別の市では、<u>町のお祭りといった地域の中のイベント対応という形でくじびき対象で地区で当たった人に提供する</u>ような、そういうしくみにしたり、<u>色々な知恵をもって、市民が自分達の町会の中で使わなければ、これが成り立たないんだ、という機運づくりをして、そういったものを始めている、</u>ということもある。</p> | <p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、数値目標は段階的に更新していくよう数値を修正した。現状では行政負担率が 80%を下回るかどうか、という程度であるため、目標値としては 70%に設定している。なお、最終的には行政負担率 50%以下を目指すものとする。 ご意見を踏まえ、<u>運行廃止の切っ掛けとなる数値を定める</u>よう修正した。本格運行を開始するための数値である、<u>行政負担率 90%未満（運賃収入 10%以上）</u>としている。 指針を定めるにあたり、各地区との情報共有を図るため、地区ごとの現状を改めて精査する。また、路線を維持するために必要なことを整理し、各地区に働きかけていく。 公共交通に関する市民向け勉強会の開催を検討する。 |

| 番号 | 区分 | 質問・意見等 | 回答・対応等 |
|----|---------------|--|--|
| | | <p>役所にこういう路線を引いてもらうんだという意識から、地区に私たちが路線を引いて来るんだ、というふうに変わらないと維持できないもの。</p> <p>50%というのは非常にハードルが高いと感じる。まずは現状が 20%程度ということであれば、30%、40%と段階的に上げていく方向性を考えられた方がよい。一気に背伸びしては苦しくなる。その結果、公共交通がなくなってしまうたら地域住民は困ってしまう。そうではなく維持する<u>ということが大事なので、維持・継続できるため、市の行政として、地域のコミュニティバスとして身の丈にあった利用とはどれ位なんだろう、ということ</u>を地区の人達と考える、<u>ということが必要なことになるかと考える。</u></p> | |
| 3 | 運行の実績について | ユニークユーザー（実利用者）が何人いるのか、データを示されたい。 | 乗合タクシーはデータとして持っているので、ご提示するか、情報共有した上で、検討していくことはすぐにできると思う。 <u>循環バスについては地域の方であったり、事業者の方のご協力を頂いて調査をしていかないとなかなか調査という形で整ってこない。ご協力を頂ければというところ。</u> |
| 4 | 循環バスの位置づけについて | 原則として、廃止代替路線としている、とあるが、 <u>今から新しい路線を推薦して下さいということではなく、今のバス路線が廃止になったら循環バスを走らせるということが前提なのか。</u> | 廃止代替以外のものについてですが、 <u>交通事業者にまずご相談していくことになる。もしそこで採算が取れて、交通事業者が必要があるのでやります、と言って頂ければ路線を走らせて頂いたり、代替手段として走らせて頂くものをまずは検討している。それを踏まえて、できません、ということであれば、その都度考えていくことにはなるのですが、基本的には廃止代替と考えている。</u> |